

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	11	高知東工業	高等学校	課程	全
------	----	-------	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	企業や関係機関との連携を通して、高い専門知識や技術を習得したスペシャリストを養成し、次世代の産業の担い手を育成する。 先端機器を活用したものづくり教育を通して、工業分野の高度な知識や技術を習得し、基幹産業の発展に貢献できる技術者を育成する。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○ものづくりに興味・関心がある生徒を募集します。 ○機械、電子の専門知識を生かして産業界で活躍したいと考えている生徒を募集します。 ○基本的な生活習慣を身に付け、規律ある生活を送ることができる生徒を募集します。 ○部活動、生徒会活動、ボランティア活動等に積極的に参加できる生徒を募集します。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○最先端の実習機器を活用し、デジタル化に対応した実習を行います。 ○資格試験取得や各種競技大会への参加を推奨し、生徒のスキルアップを支援します。 ○地域と連携したものづくり活動や研究発表会等、生徒が校外で活躍する場を設けます。 ○就職・進学に対応した選択科目を置き、また、企業・学校等と連携した3年間の計画的なキャリア教育を行います。	
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○社会人として必要な規範意識とコミュニケーション力を育成します。 ○ものづくりの楽しさを実感し、最後まで諦めずに挑戦できる力を育成します。 ○機械・電子に関する高度な技術・技能を習得し、地域産業の発展に生かそうとする意欲を育成します。		

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 B 】 丁寧な取り組みをされていると思うが、目標達成のため一段の努力を期待する。特にC層以上の生徒の増加、検定等の一層の成果。
【社会性の育成】	評価 【 A 】 社会性の育成については、各目標で十分に達成されている。
【チーム学校】	評価 【 A 】 不祥事や働き方は目標を達成しており評価できる。地域協働学習についても積極的な取り組みがうかがえる。引き続きの取り組みを期待したい。

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	【現状】 2年生は、入学時にD3層38%、D層は72%おり、勉強への苦手意識や徒労感を訴える生徒が多い。 【目標】 ①C層以上の生徒の増加 ・1年: (22)% → (35)% ・2年: (28)% → (35)% ②「授業外学習をする」生徒を70%以上にする。 R6基礎力診断2回目 69% ③検定・資格等の合格者の割合を65%以上	・こまめな小テストの実施 ・放課後補習、補力補習の実施 ・宿題による、家庭学習の習慣づけ ・SPI講習会の実施 ・提出物の厳守と添削指導 ・ICTの効果的な活用(すららを使った個別最適学習等)によるシームレス化 ・検定・資格試験に向けた補習の実施	C	・C層以上 1年 22% 2年 18%(基礎力1回目) ・D3層 1年38%、2年30%(入学時39%) ・D層 1年78% 2年82%(入学時75%) ・夏休みを「タブレット持ち帰り期間」として設定 ・基礎学力の向上に努めているものの、生徒の学習意欲の向上が困難なことが課題である。 ・一方、D3層の生徒からも補習等による支援で電気工事士などの国家資格合格者も出ている。	B	①1年28%(6%↑) 2年41%(13%↑) ②55% ③64%	基礎学力の向上は見られたものの、授業外学習等に課題を残した。タブレットの持ち帰りは、本校生徒には不向きなため、スマートフォンでの学習方法等を検討していく。
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	【現状】 生徒指導件数は少し減少した。就職内定率は100%を継続している。 【目標】 ①高校3年生の「将来の夢や希望を持っている」肯定的回答90%以上 ②大学・専門学校・企業見学、インターンシップに参加する生徒の割合を100% ③就職内定率100%	・家庭・関係機関等と連携した全体・個別指導 ・キャリア教育講演会の実施 ・ビジネスマナー講習会や就職、進学ガイダンスの実施 ・イベント参加や各種発表会への参加 ・文化祭などの学校行事 ・学年集会の開催 ・ボランティア活動の定期開催	B	・高校3年生の「将来の夢や希望を持っている」肯定的回答90%以上 R6 1回目82% ・インターンシップ・オープンキャンパス等へほぼ全員が参加 ・PTAによる面接練習実施	A	①92% ②100% ③100%
取組項目	地域協働学習 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	【現状】 地域や社会への貢献度・認知度をあげる必要がある。 【目標】 ①「地域貢献活動やボランティア活動を行ったことがある」肯定的回答50%以上 ②R7高等学校DX加速化推進事業を活用し、地域の方々を対象としたイベントを複数開催	・生徒会を中心としたボランティア活動への参加 ・生徒を主体とした防災活動・訓練等の実施 ・「ものづくり教室」を含めた各種イベントへの積極的参加・開催 ・教員の専門力向上を図る研修会への参加	B	・各科指導による資格試験への挑戦は継続中 ・ごめん駅清掃等ボランティア活動を年間通して実施中 ・生徒会を中心とした各種イベント参加(3回) ・防災訓練・学校行事実施時に地域住民等への案内状配布(生徒会)	A	①82.8% ②5回実施	検定・資格試験への指導は継続実施。受検者を増やす取り組みを続ける。地域と協働した防災活動・訓練を継続し、防災の拠点校として発信を続ける。ボランティア活動を見直し更なる活性化に取り組む。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	【現状】 各教科で取り組んでいるが、回数設定等は行っていない。 【目標】 ①言語活動や情報活用能力を育成する場面を各教科学期に1回以上 ②実社会での課題を発見し、解決に結びつける「課題研究」の成果物割合80%以上	・指導力向上を目指した授業相互参観 ・生徒発表に関する教員指導力向上研修 ・ICT活用に関する校内研修 ・社会貢献を意識した「課題研究」テーマ設定	B	・各教科で言語活動や情報活用能力を育成する場面を実施 ・ICT活用研修実施 ・音楽と工業での教科横断的授業(カリンバ作成における工業実習との連携)	B	①実施100% ②100%

重点項目	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】		
チーム学校	学校の振興 ★学校の魅力化・特色化 ○地域との連携・協働 ○学校PRのリニューアル ○部活動の活性化 ○国際感覚の醸成	【現状】 学校運営協議会より生徒数確保のため、更なる学校PRの促進が提言された。 ①魅力化・特色化の具体的目標(指標) ・学校PRのためイベント参加年間5回以上 ・インターネット(HP・SNS)を利用した情報発信毎月更新 ②学校運営協議会2回実施 ③全体での部活動応援体制構築(全体全体応援・部活動新聞等) ④海外高等学校との交流活性化	・学校パンフレット(スクールガイド)の更新 ・学校紹介ビデオのリニューアル ・学校Instagram投稿の励行 ・ものづくり教室を主体としたイベント参加 ・タブレット持ち帰り期間の設定 ・部活動計画の見直し・加入率増加への働きかけ ・韓国の柳韓工業高校との交流促進(訪問継続予定)	B	・部活動活性化に向けた取り組み(全体全校応援、体験入学での部活動新聞配布等)を実施 ・HP・Instagram・イベント参加・広報活動等を担当のみでなく学校全体としての取組として行う ・柳韓工業高校への訪問を計画	A	①クリア(イベント参加・開催5回) ②クリア(2回実施) ③クリア(全体全体応援・部活動新聞発行実施) ④未実施	イベント開催や地域イベントへの参加、Instagram等での発信など積極的に行ってきたが、さらに魅力あるものとするため専門家による勉強会等を実施予定。国際交流活性化に向けこれまでの取組・魅力等生徒への啓発活動を行う。	
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	【現状】 懲戒処分等は起こっていないが、軽微な事案の発生もないよう取り組む。 【目標】 ①倫理観堅持のための具体的目標(指標) ・不祥事事案発生件数0件 ②校内研修の3回実施 ③不祥事防止委員会6回実施	・発送文書等の複数確認の遵守 ・相談や仕事依頼のしやすい雰囲気づくり ・管理職の執務室巡回による声掛け ・不祥事防止委員会の発足・運営	B	・4月より毎月不祥事防止委員会を開催 ・不祥事防止研修会を実施	B	①0件 ②クリア(3回実施) ③クリア(9回実施)	不祥事防止には教員の自覚が生命線であり、行動する前の想像力を醸成できるように研修を重ねていく。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○部活動方針の徹底 ○計画的な補習(資格等)の実施 ○分掌の相互協力	【現状】 R6年度月45時間を超える時間外勤務を行った教職員は、のべ13名であった。 【目標】 ①すべての教職員において時間外勤務45時間以上の月を年間3か月以内 ②すべての教職員において時間外勤務を月80時間以内	・部活動の分業体制の推進 ・分掌の横断的協力体制の構築 ・会議の精選・縮小、資料の簡素化 ・検定・資格取得の補習計画の確認・調整 ・期間限定業務による時間外勤務超過教員への声掛け・確認	B	・体育館使用停止中につき運動部活動顧問の分業体制の構築を行った ・4~9月、時間外勤務45時間以上のものが7名であった ・昨年に引き続き会議や会議資料の簡素化を実施	B	①クリア(該当者なし) ②クリア(該当者なし)	教職員の心身の健康を一番に、業務の改善・見直し等を継続していく。